

医学系研究科長メッセージ

愛媛大学は、「輝く個性で地域を動かし世界とつながる大学」を創造することを理念に、地域を牽引し、グローバルな視野で社会に貢献する教育・研究・社会活動を展開するというビジョンを掲げ、様々な具体的な取組を行っています。その中で医学部・医学系研究科は、「患者から学び、患者に還元する教育・研究・医療」を創立来の基本方針として活動しています。現在、我が国をはじめとした先進諸国では、急速に高齢化が進んでいますが、その中で問題となっているのが平均寿命と健康寿命(日常生活に制限のない期間)の差であり、その差は平均で10年前後となっています。そのため、健康寿命を延伸し、平均寿命との差を縮めることが個人の生活の質の低下を防ぐ観点からも、社会的負担を軽減する観点からも重要となっています。愛媛は高齢化のスピードが早く、心疾患発症率が全国トップであることなど、近未来を想定したウエルエイジング研究を実施するのに適しています。今年度、愛媛大学では、地域の健康増進を目的の一つとした地域協働センター中予を設立しました。また、地域密着型コーホート研究や食を通じて健康増進を目指す医農融合研究を推進しています。このような取り組みを通じて、愛媛大学医学系研究科は、地方から発信し世界に貢献できる健康長寿研究・教育を目指しています。


 医学系研究科長
羽藤 直人

老化メカニズムの解明・制御による健康寿命の延伸を目指した研究

以下の3つのテーマを中心に老化研究・教育を推進します。

①老化のメカニズム解明と制御によるウエルエイジング研究支援

「ヒトはなぜ老化するのか?」この単純な疑問に対して、私たちは正確な答えを未だ持っていません。そこで、老化のメカニズムを解明するための基礎研究を行い、健康寿命延伸の新たな方法論の提唱を目指します。

②医農融合による食を通じた健康寿命の延伸研究の支援

疾患のメカニズムを解明し健康増進を目指す「医学」と人の健康に影響を及ぼす食・環境を対象とする「農学」は密接に結びついています。両分野の研究を融合し、食を通じた健康増進に関する新たな研究を行います。

③地域住民と看護学生、医学生がともに学び・育つ健康学習プログラムの実践支援

教員と学生が協議し、地域住民の健康ニーズに対応した健康寿命延伸のための学修プログラムを考案し、地域住民と学生がともに語り合い、学び合う場として、地域でコミュニティカフェを開催します。また、地域住民の健康意識の評価を行うとともに、学生のコミュニケーション能力、共感性、倫理観を養い、それらの評価を行います。

ご寄附いただいた場合

◆寄附金は寄附金控除の対象となります。

- ・ご寄附いただいた翌月頃までに、寄附金領収証明書を郵送します。
寄附金控除を受けるためには、確定申告の際に寄附金領収証明書を添付してください。

◆活動内容を報告します。

- ・活動報告書をお送りします。

◆その他

- ・ご寄附をいただいた方への謝意については、愛媛大学基金HPをご参照ください。
URL: http://foundation.office.ehime-u.ac.jp/contents/donation_gratitude/

団体連絡先

愛媛大学 基金室

〒790-8577 愛媛県松山市道後樋又10番13号
TEL:089-927-8346 FAX:089-927-9025
URL: <http://foundation.office.ehime-u.ac.jp/>

ご支援でできること

最終的な目標や成果(社会的インパクト)

この研究は、以下のような用途に活用できる可能性があります。

加齢に伴って増加する病気の原因解明・予防・創薬

がん、自己免疫疾患(体を守る免疫が自分を攻撃してしまうことで起きる疾患:関節リウマチ、糸球体腎炎、バセドウ病、1型糖尿病、血管炎など)や感染症の最も大きなリスク因子は加齢(老化)だと言われています。しかし、老化がなぜ起きるのか? また、加齢とともにどうして疾患が増加するのかについては、よく分かっていません。加齢(老化)と病気の増加の関係を解明できれば、加齢関連疾患の原因が明らかとなり、その発症予防や治療のための創薬につながる可能性があります。

医学・農学が連携した地域住民の健康増進

日本や中国には「医食同源」、「薬食同源」と言葉があります。これらの言葉から、食と健康が密接に関連していることを示しています。食と健康の関係を科学的に解明し、その成果を住民に発信するとともに医療従事者をめざす学生の教育を行うことで、病気の発症予防につながる可能性があります。

地域住民の健康意識の向上、地域で暮らす人々を尊重する医療人材の育成

コミュニティカフェでは、最新の健康や医療に関する知識を提供しますが、一方的な知識伝達ではなく、語り合いの場を通じて、自分自身に合った問題解決方法の獲得を目指します。また、これまでの病院を中心とした教育では、患者が入院前は地域で役割を持ち、自律的に暮らしてきた人であることを学生が想像することが困難でした。コミュニティカフェにおいて、看護学生・医学生が地域で自律して暮らす人々に関わることで、医療を受ける人々のこれまでの生き方や考えを尊重する態度を育成します。

目標達成に向けた中期KPI(寄付者やインパクトを受ける人たちにとっての「変化」)

- 2030年までの目標
- 老化研究を柱とした新たな生命科学と医療の開拓
 - 食を通じた健康寿命延伸の新たな方策の提唱と普及
 - 地域住民と看護学生、医学生がともに学ぶ教育プログラムの開発と実践



具体的な短期活動(今回の寄付金での使途計画=左側ページでの詳細テーマの計画)

研究の支援

老化のメカニズム解明を目指した革新的な研究、創薬研究、機能性食品研究などを支援します。
コーホート研究と検体保管のための愛大バイオバンクプロジェクトを支援します。
食を通じた健康増進に関する医農融合プロジェクトを支援します。
研究設備の維持のための財源として活用します。



教育の支援

地域に根ざし、健康寿命延伸のための医療活動に取組む人材育成のための教育プロジェクトを支援します。

情報発信・普及活動

地域に情報を発信する市民公開講座の開催や広報活動の財源として活用します。

知的財産(特許)の確保と維持

老化研究で得られた特許を維持するための財源として活用します。

これから到来する超高齢化社会をより良いものとするためには、健康寿命の延伸が必須です。
老化メカニズムの解明を通じて健康寿命延伸を目指す研究、地域に根ざして健康寿命延伸の実現に取組む医療人の育成に、あなたのお力をお貸しいただけたら幸いです。